

木協通信

★日田木材協同組合百年を語る

○明治維新に於ける日田林業と日田郡木竹商組合の誕生 続き

このようにして振興商人達の進出が始まるが、同時に木材商売を始める商人資本家も続出するに至った。

木材商の増加によって日田林業はますます発展し、木材の売り上げの多寡が日田地方の盛衰にかかわるほど重要な産業になったが、その反面いろいろ問題も生ずることにもなった。

次の「御願」は、八大区长宛 県内は八大区に分けられ各区毎に用務所を置いて区長がいた。日田は大八区に属した）のものであったろうと思われるが、その中に日田郡の材木は予ねて良質で名を取り、土地の産物では最たるものであり、従前から両筑両肥に販売していた。販売の多寡は土地の盛衰にも関係するので、旧政府のころはしばしば保護の法をとってくれた。ところが近年移出高は往時に比し十分の三、四に過ぎなくなった。

★業主視察研修について

次回続く

総務企画委員長 諫本初美
平成25年11月15日から17日までの2泊3日間で伊勢方面に総勢23名で視察研修に行ってきたのでご報告します。

ウッドピア松阪協同組合（三重県松阪市）



当協同組合は丸太から住宅まで、一貫して販売できる総合流通加工団地として平成13年から開業している。組合員は32名で、森林組合等の事業体、

原木市場、製材工場等が構成員となっている。敷地面積は41畝で、うち23畝が工場等の敷地となっており、土場は広々としている。

コンビナートの総事業費は142億円で、そのうち用地造成費が29億円 坪当たり23千円）となっており、国・県・市から75%の助成金が支出されている。

木材流通関係では、原木市場・製品市場・販売センターがあり、木材加工関係では製材工場・集成材工場・内装材工場・プレカット工場等がある。

取り扱いの規模は原木市場で16万³m、製

第26号
発行年月日
平成25年12月1日
日田市南友田100-1
日田木材協同組合
総務企画委員会発行
TEL24-2167



スギ・ヒノキの中径木から木協にある銘木

品市場で6万³m、製材工場の原木消費量で5万³m、集成材工場で4千³mの能力となっている。

最初に土場を視察させていただいたが、

程度の大きさのスギが桎積されていた。中径木はともに年輪幅が狭く均一であり、良質材揃いであった。スギ4mの22cmの良質丸太が18,000円で取引されており、日田より丸太価格

が安いと感じた。銘木級はヒノキが70万円、スギが90万円/m³であった。市場では、年間に能力の半分の約8万³mが取り扱われており、経営的には厳しいようである。

次に製品市場を案内された。製品は本州を始め九州地方からも入荷されており、広葉樹の板類や



ヒノキ・スギの角材など品揃えは多かった。価格はヒノキ4面無節が20万円/m³、上小節は7万円程度であった。日田からスギ4mで9cmの角材が入荷していた

が、6万円/m³で今後も値上がりされると言っていた。

製材工場は規模が大きく、オートメーション化されており、作業員は少人数でスギを主体に製材していた。

最後に、近くのバイオマス発電所の、原料置き場を案内していただいた。4mの丸太が山のよう



うに積み上げられていた。1トンあたり7,500円で材を買い取っており、製材業者は素材の仕入れに懸念を抱いている

ようである。

伊勢神宮おまいり

初日の夕方外宮にお参りし、次の日の早朝に内宮にお参りした。伊勢神宮にお参りするのは外宮に参ってから内宮に参るのが正式な参拝の順序とされている。今年は社殿を20年に1度建て替えて、神々を移す一



連の儀式である式年遷宮の年であり、今回が62回目となった。通常の年の参拝者は70万人であるそうだが、10月下旬ですでに1,000万人を

超えており、過去最高を更新中とのことである。外宮は衣食住の神である豊受大御神をようけのおおみかみ が祭られている。内宮は国民の総氏神とされる天照大御神が祭られている。

朝の澄み切った空気のなか聖俗を分かつ境界である鳥居をくぐると、身も心も引き締まる思いがする。内宮では板塀で囲まれて通常は中に入れないが、大原神社の計らいで板塀の



中から正宮に祭られている天照大御神にお参りした。古い正宮と新しい正宮が同時に拝見でき、貴重な体験ができた。古い建物の材料は各地の神

社の材料に生まれ替わることである。建物は総ヒノキ造りであり最高の材料が使われている。この材料は伊勢神宮が所有する宮域林約5,500畝から調達されているが、適材



が不足して今回は2割が社有林から、残り4割は木曾地方から切り出している。全体で1万本以上が使われているそうだが、端数は発表され

ていないとのことである。

公式参拝を終え、神楽殿でお祓いを受けたのち、神楽を拝見した。身も心も清められ、一生の思い出となった。

東海相互木材市場西部市場

二日目に東海木材西部市場で視察研修をおこなった。東海相互木材市場は昭和30年に資本金1億5千万円で設立され現在59年



目を迎えている。本社の他に西部市場取扱品目製材品、建材、銘木、プレカット、大口市場取扱品目国産

素材、製材品、プレカット、製材所）サテライト美並（みなみ）・サテライト名倉（ともに山元土場）、及び岐阜県に飛騨匠工場（プレカット）がある。

西部市場の敷地面積は11,500坪で



あり、うち6割が建築物の敷地となっている。市売問屋が9社あり、毎週火曜日に市を開催している。

取扱手数料は売上高の9%で、別に市場



整理費として製品は850円以上／m³を徴収している。製品の取扱量は現在外材が4

割、国産材が6割となっている。以前はその割合が逆であったそうだが。

大口市場の素材の入荷は岐阜・愛知・長野・静岡の4県で全体の8割を占めている。グループ全体の製品の入荷量は九州が最も多くて35%、中部地方から40%、四国から15%となっている。

グループの素材の取扱量は平成24年度で82千m³、製品で79千m³となっている。

プレカット工場はヒノキの集成材やベイマツを主体として加工されていたが、月に3千3百から3千5百坪（丹約75棟分）分が加工されている。

意見交換のなかで、今後の需給見通しについての質問に対し、今の状況は来年の春ぐらいまでは続くのではないかとの見通しを持っていった。また、このように国産材の価格が上がれば、外材にシフトされるのではとの懸念が参加者からの意見として出されていた。

木材関係の視察は2社とも有意義に終えることができたが、木質の良し悪しは別にして、全国から同じ様な製品が出荷されており、新しい商品の開発や商品の差別化を図ることが必要であると感じた。

名古屋城の見学

二日目の最後に名古屋城を見学した。名古屋城本丸御殿が復元されており、伊勢神宮に劣らず木曾の最高級のヒノキが使用されており、香り漂う書院造りとなっている。



トヨタ博物館・徳川美術館

最後の三日目にトヨタ博物館・徳川美術館を見学した。博物館には世界の名車など130台近くの車が展示されており、車好きにはたまらない施設である。トヨタの1号車から現代の新型車まで展示されており、車作りの歴史を学ぶことができる。美術館は国宝9点を始め重要文化財など数多くの美術品を所蔵している。この日は源氏物語絵巻の国宝が展示されていた。また、江戸時代に実際に使用した書物、茶器や刀、着物など見応えのあるものが沢山あった。

三日間天候にも恵まれ、無事に有意義な視察研修を終えることができました。

伊勢神宮からいただいた御札は組合員の健康とご発展を願う木協の神棚にお祭りしています。

☆木材乾燥のアンケート調査結果について

アンケート調査につきまして、13社から回答をいただきました。13社からの回答をいただいた自社工場での年間の乾燥計画は燻蒸を含めて43,570m³となっています。一方、木協に乾燥を依頼したい数量は8社で3,880m³でした。

主な意見として、今現在、乾燥はしていないが、売り先のニーズに対応して乾燥材を作りたいと考えているが、敷地が狭いので木協で導入していただきたい。自社で乾燥機を入れるには量が少ないことや敷地が狭くて設置できないので木協に依頼したい。また、導入するのであれば減圧乾燥機や高周波乾燥機の導入を希望するが、安い買い物ではないのでよく検討して実行していただきたい。日田資源開発でも乾燥機の家がでているので、双方で意見交換が必要ではないか。以前、総会で乾燥機の導入の話が出たが、その時一部の組合員のためにはできないとのことであったなどのご意見をいただきました。この結果に基づき、共販委員会検討中です。

☆木材産業の振興を日田市長に陳情

先に皆様にお知らせした木材産業の振興対策につきまして、去る11月7日に日田市長に陳情致しました。日田市長から林業・木材産業は市の基幹産業であり、振興を図らなければならない。そのためのビジョンを策定するので、協力してほしいとの要請がありました。

